

3

システム機能の説明

本章では、システムの機能について説明しています。

- 1 日本語入力システム MS-IME について 74
- 2 インジケータ領域について 77
- 3 ディスプレイ解像度の変更 78
- 4 ドライバのインストールについて 80

1 日本語入力システムMS-IMEについて

1 MS-IME ツールバーの表示

本製品には日本語入力システム MS-IME が標準装備されています。

MS-IME のバージョンはお使いになるモデルによって異なります。

MS-IME2002 : すべてのシステムのアプリケーションモデル

MS-IME2000 : Windows 2000 モデル

MS-IME98 : Windows 98 モデル

MS-IME のツールバーは次のとおりです。

● MS-IME2002 ツールバー



● MS-IME2000 / MS-IME98 ツールバー



ツールバーの各ボタンで入力文字種の選択や MS-IME の設定、ヘルプの起動などが行えます。

ツールバーが表示されていない場合は、次の手順で表示することができます。

● MS-IME2002 の場合

- ① タスクバーの日本語アイコン をクリックする
メニューが表示されます。
- ② [言語バーの表示] をクリックする
MS-IME のツールバーが表示されます。

● MS-IME2000 / MS-IME98 の場合

- ① タスクバーの日本語入力インジケータ (MS-IME 日本語入力システムアイコン) をクリックする
メニューが表示されます。
- ② [ツールバーを表示] をクリックする
MS-IME のツールバーが表示されます。

ツールバーが表示されている状態で上記メニューの [ツールバーを表示] をもう 1 度クリックすると、MS-IME のツールバーは画面から消えます。

② 入力文字種を選択

入力する文字種を選択は、次のように行います。まず、MS-IMEのツールバーの[入力モード] ボタンをクリックすると文字の種類を選択するメニューが表示されます。ここでは、[ひらがな] にマウスポインタを合わせ、クリックします。ツールバーの[入力モード] ボタンは、[あ] に変わり、全角ひらがな入力が可能になります。

● MS-IME2002 の場合



● MS-IME2000 / MS-IME98 の場合



3 MS-IME ツールバーの使用方法

MS-IME の詳しい使用方法は、次の手順でヘルプ画面を表示し、知りたい項目をクリックしてお読みください。

● MS-IME2002 の場合

方法 1

- ① ツールバーの [ヘルプ] ボタンをクリックする



- ② [Microsoft (R) IME スタンダード 2002] - [目次とキーワード] をクリックする
ヘルプ画面が表示されます。

方法 2

- ① ツールバーの [ツール] ボタンをクリックする



- ② [ヘルプ] - [目次とキーワード] をクリックする
ヘルプ画面が表示されます。

方法 3

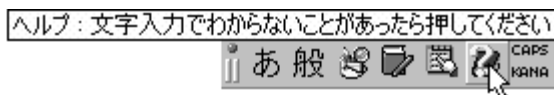
- ① ツールバーの [入力方式] ボタンをクリックする



- ② [ヘルプ] - [目次とキーワード] をクリックする
ヘルプ画面が表示されます。

● MS-IME2000 / MS-IME98 の場合

- ① ツールバーの [ヘルプ] ボタンをクリックする





- ② [目次とキーワード] をクリックする
ヘルプ画面が表示されます。

② インジケータ領域について

ここでは、タスクバーインジケータ領域と日付と時刻の設定について簡単に説明します。


① 日本語入力インジケータ

MS-IME2000 / MS-IME98 の場合、タスクバーに日本語入力インジケータ () が表示されます。

日本語入力インジケータ  をクリックすると、MS-IME ツールバーの表示 / 非表示、日本語入力オン / オフの切り替えを行うことができます。

 使用方法について ⇨ 「本章 1 日本語入力システム MS-IME について」


② 音量インジケータ


音量インジケータ  をクリックすると、本装置に接続されたスピーカの音量を設定することができます。なお、ダブルクリックすると [ボリューム コントロール] の画面が表示されて、より詳細な設定ができます。

③ 日付と時刻の設定

タスクバー右端の時刻の部分ダブルクリックすると、日付と時刻の設定を行うことができます。

④ 画面インジケータ (Windows 98 モデル)

画面インジケータ () をクリックすると、ディスプレイの解像度を変更することができます。画面インジケータは、Windows 2000 モデルでは、表示されません。なお、ダブルクリックすると「画面のプロパティ」の画面が表示されて、より詳細な設定を行うことができます。

 「画面のプロパティ」でディスプレイ解像度を変更する
⇨ 「本章 3 ディスプレイ解像度の変更」

3 ディスプレイ解像度の変更

ここでは、ディスプレイ解像度や表示できる色数を変更する方法を説明します。

Windows 98 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

- 2 [画面] アイコンをダブルクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。



メモ

・インジケータ領域の画面インジケータ  をダブルクリックしても、同様の画面が表示されます。



(表示例)

- 3 [設定] タブをクリックする

[色]、[画面の領域] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。



(表示例)

- 4 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックする

設定を保存して、[画面のプロパティ] 画面を閉じます。

Windows 2000 の場合

1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

2 [画面] アイコンをダブルクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。



(表示例)

3 [設定] タブをクリックする

[画面の色] または [画面の領域] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。



(表示例)

4 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックする

設定を保存して、[画面のプロパティ] 画面を閉じます。

4 ドライバのインストールについて

ドライバのインストールについては、各ドライバの説明書に従ってインストールしてください。

Windows 98 の場合

フロッピーディスクからドライバのインストールを行なっている場合に、[ディスクの挿入] 画面が表示される場合があります。



このような場合は、次の手順でインストールを継続してください。

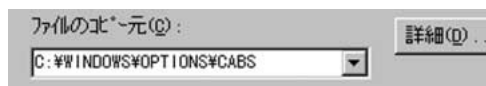
- 1 [ディスクの挿入] 画面の [OK] ボタンをクリックする
[ファイルのコピー] 画面が表示されます。



(表示例)

- 2 ファイルのコピー元を入力する

[ファイルのコピー元(C):] に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力します。



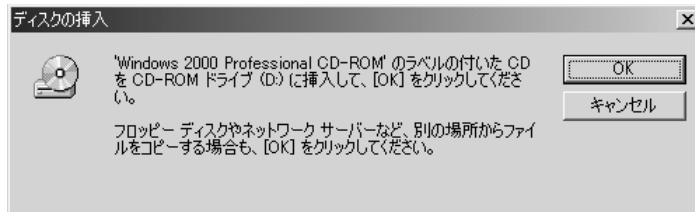
- 3 [OK] ボタンをクリックする

メッセージに従ってインストールを継続してください。

以上の操作を行なっても正しくインストールできない場合は、ドライバの提供元にお問い合わせください。

Windows 2000 の場合

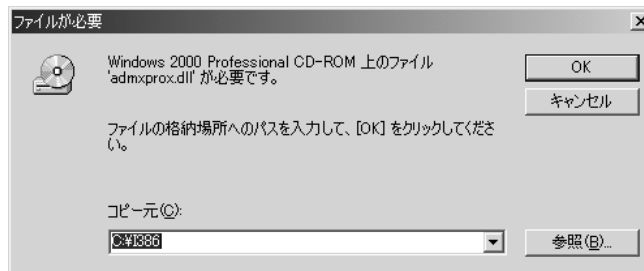
Windows コンポーネントの追加や、ドライバのインストールを行なっている場合、[ディスクの挿入] 画面が表示される場合があります。



このような場合は次の手順でインストールを継続してください。

1 [ディスクの挿入] 画面の [OK] ボタンをクリックする

[ファイルが必要] 画面が表示されます。



2 コピー元を入力する

コピー元に、[C:\¥i386] と入力します。

3 [OK] ボタンをクリックする

メッセージに従ってインストールを継続してください。

4

機器の拡張について

本章ではパソコン本体にオプションカードやディスクドライブ、メモリカードなどを取り付ける方法について説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	作業を始める前に	84
2	LAN の接続	86
3	プリンタの接続	92
4	マイクの接続	94
5	スピーカの接続	95
6	本体カバーの取りはずし、取り付け	96
7	オプションカード	101
8	増設ハードディスクドライブ	105
9	増設5型ドライブ	117
10	増設メモリカード	121
11	内蔵バッテリーの交換	126
12	内部ケーブルの接続	128

1 作業を始める前に

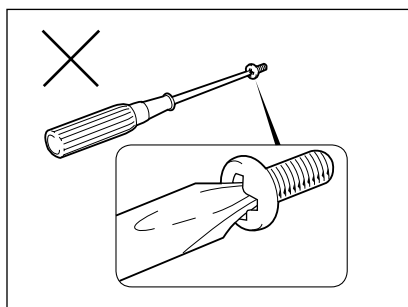
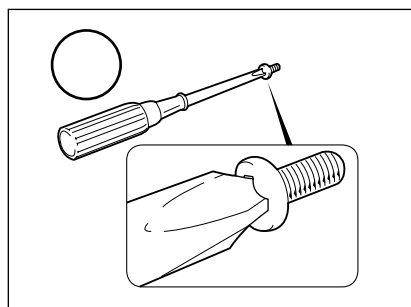


お願い

・システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のあるかた（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われたかた）を対象としております。システム拡張の経験のないかた、難しいと思われるかたはお買い上げの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

作業前の注意事項

- 湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行なってください。
- 温度範囲は 10 ~ 35℃、湿度範囲は 20 ~ 80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。
- 必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行なってください。
- 注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行なってください。
- 各手順は、必ず正しい順序で行うようにしてください。
- 取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。
- 静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上等など）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。
- 必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け／取りはずし作業を行なってください。
- 作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。
内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。
- ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。
- 異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- オプションカードには鋭い突起があります。手を傷つけないようにしてください。
- コネクタの接続、オプションカードの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。
ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



- 本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。
- 電源コードの接続は、①アース線、②プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、プラグ→アース線の順に行なってください。



- 注意**
- ・この章で説明されている「6節 本体カバーの取りはずし、取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切り、ケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
 - ・本体カバーをはずして作業する場合、電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
 - ・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところがありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋の使用をおすすめします。



お願い

- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

🔊 設定について

- ⇒ 「5章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』

② LAN の接続

本装置は、Fast Ethernet LAN (100BASE-TX)、Ethernet LAN (10BASE-T)に対応しています。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項および技術的な内容を説明します。

① 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100M ビット/秒) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

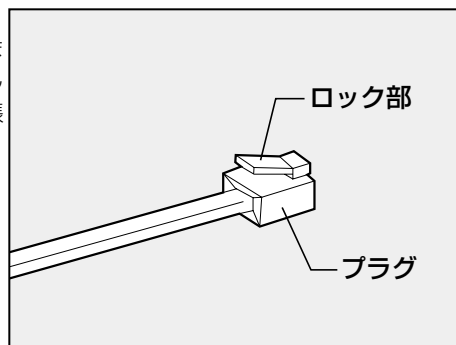
10BASE-T 規格 (10M ビット/秒) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

② LAN ケーブルの接続

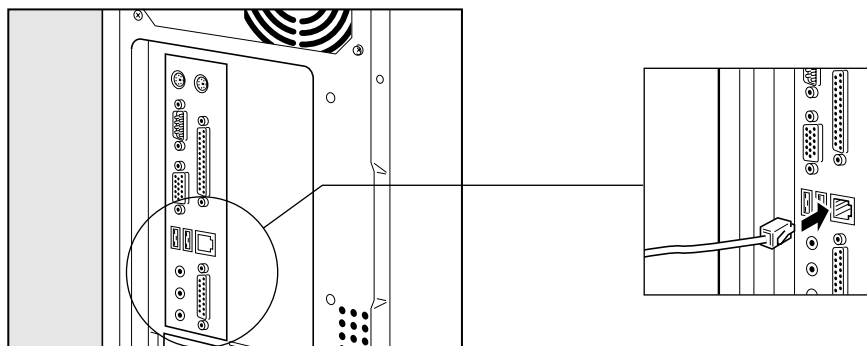


お願い

LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 LAN ケーブルのプラグを本体背面の LAN コネクタに差し込む
パチンと音がするまで差し込んでください。



- 5 LAN ケーブルのもう一方のプラグを HUB (ハブ) のコネクタに差し込む
HUB (ハブ) の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 テクニカル情報

● Fast Ethernet ケーブル

100BASE-TX

100BASE-TX では、2組のツイストペア・イーサネット（TPE）ケーブルによる 100Mbps の転送をサポートしており、カテゴリ 5（CAT5）のケーブルを使用します。100BASE-TX のセグメント長は、最大 100 メートルに制限されています。

● Fast Ethernet HUB（ハブ）

さまざまな Fast Ethernet 仕様をサポートする HUB が次々に発表されています。これらの HUB は大きく分けて、シェアード HUB とスイッチング HUB の 2 つのタイプがあります。EQUIUM シリーズの LAN インタフェースでは、どちらのタイプの HUB でも使用できます。

シェアード HUB（ハブ）

シェアード HUB を使用しているネットワーク環境では、全ポートが固定の帯域幅（データ容量）を共有しています。100Mbps のシェアード HUB の場合、ハブ上の全ノードが 100Mbps の帯域幅を共有しなければなりません。ハブに新たなステーションが追加されると、個々のステーションが使用できる有効帯域幅は減少します。シェアード HUB は、全車が 1 レーンを共有する単一レーンの高速道路にたとえられます。高速道路上に車が増えると、トラフィックは混雑し、各車の移動に要する時間は増大します。

シェアード HUB の場合、全ノードが同一の転送速度（10Mbps または 100Mbps）で動作しなければなりません。Fast Ethernet HUB の場合、10BASE-T リピータの 10 倍の 100Mbps の帯域幅を提供します。

スイッチング HUB（ハブ）

スイッチング HUB を使用しているネットワーク環境では、各ポートに固定の専用帯域幅が割り当てられます。高速道路の例で言うと、各車が他の車と共有しない独自のレーンを持つこととなります。

スイッチング HUB では、データは送信先ステーションにつながるポートにだけ送信されます。ネットワークの帯域幅は全ステーションに共有されているのではなく、HUB に接続された個々のステーションがそれぞれのネットワークの全帯域幅を使用することができます。このためスイッチングハブではネットワークで使用できる帯域幅の合計が効果的に増大するので、パフォーマンスが大きく向上します。

スイッチング HUB では、一部のノードを 10Mbps で使用し、他のノードを 100Mbps で使用できるものもあります。スイッチングハブは洗練された設計により、このようなパフォーマンス上の利点を持ちますが、1 接続あたりの費用は一般にシェアード HUB より高価になります。

4 Windows 98 のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。ご購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



注意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

● ネットワークの設定

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ネットワーククライアント 他のコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
- アダプタ コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
- サービス このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、他のコンピュータから使えるようにします。

4 【識別情報】タブをクリックし、コンピュータ名、ワークグループ名をネットワーク管理者の指示に従い、設定する

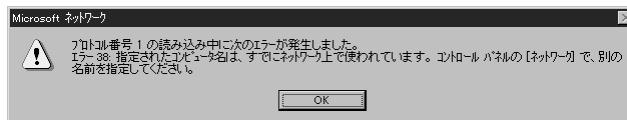


(表示例)



お願い

- ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (Default、Default_Wg) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



5 [アクセスの制御] タブをクリックし、変更を行う



ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

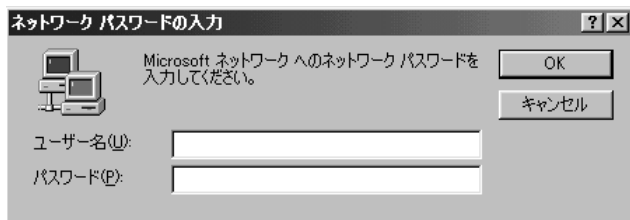
6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

● 起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



メモ

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

5 Windows 2000 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



注意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックする
- 5 プロパティを選択する
- 6 ネットワーク接続の設定を行う

セットアップ時に設定した構成になっています。

本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

アダプタ : Intel (R) PRO/100VM Network Connection
 クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント
 サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
 プロトコル : インターネットプロトコル (TCP/IP)

● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [システム] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ネットワーク ID] タブを選択する
- 5 ネットワーク ID とプロパティの設定を行う

コンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。

変更する場合はここでもう 1 度設定してください。

3 プリンタの接続

1 プリンタの接続

● ネットワーク接続でプリンタを接続する

ネットワーク上のプリンタを使用する場合の設定については、ネットワーク管理者の指示に従ってください。


● 本体にプリンタを接続する

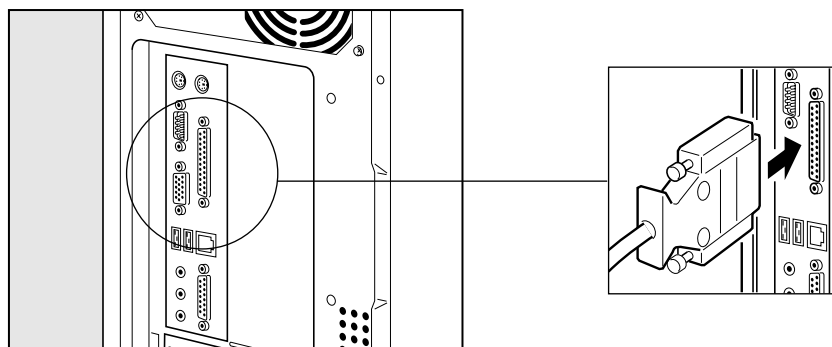
パラレルコネクタにプリンタを接続して使用することができます。

プリンタを使用するには、ドライバのインストールが必要です。詳しくは、「本節 2 プリンタ設定について」および『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。



・プリンタの接続はプリンタによって異なります。詳しくは『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 プリンタケーブルを本体背面のパラレルコネクタ  に差し込む
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタケーブルに固定用ネジがあるときは手またはドライバなどでしっかりと回して固定してください。



- 6 もう一方のプリンタケーブルをプリンタ側コネクタに差し込む
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタ側のコネクタに金具がついている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。

② プリンタ設定について

プリンタを使用するには、ドライバのインストールが必要です。

Windows が標準でドライバを用意していないプリンタの場合、プリンタの製造元が提供するフロッピーディスクやCD-ROMなどのインストールディスクが必要です。

詳しくは、『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

1 [スタート] - [設定] - [プリンタ] をクリックする

[プリンタ] 画面が表示されます。


2 [プリンタの追加] をダブルクリックする

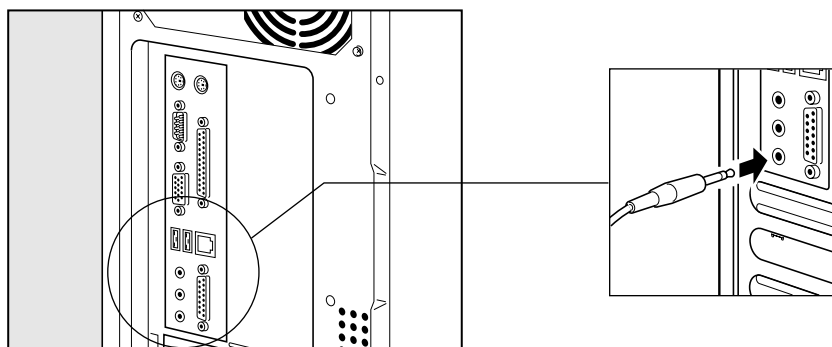
ウィザードが起動します。画面に表示されるメッセージに従って操作してください。

テストページを印刷する場合は、印刷する前に、プリンタの電源が入っていること、および印刷の準備ができていることを確認してください。

4 マイクの接続

本装置では、マイク（別売り）を接続できます。使用可能なマイクは、インピーダンス 600 Ω以上のコンデンサマイクロホンの 3.5 φ mm モノラルミニジャックタイプです。

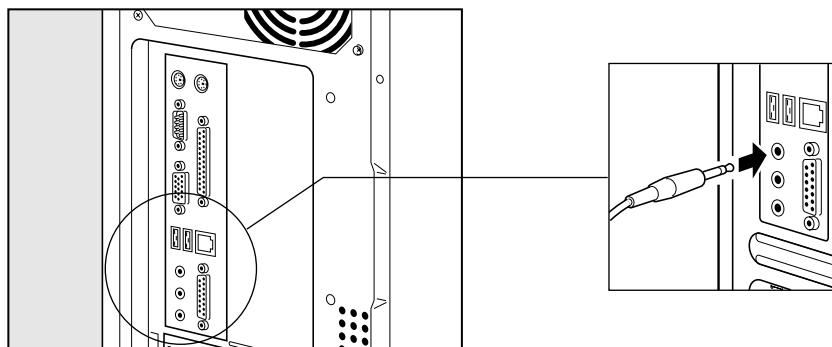
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 マイクのプラグを本体背面のマイク端子  に差し込む
しっかりと奥まで差し込んでください。



5 スピーカの接続

本装置では、アンプ付きスピーカ（別売り）を接続できます。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 スピーカのプラグを本体背面の LINE OUT 端子 (☎) に差し込む
しっかりと奥まで差し込んでください。



6 本体カバーの取りはずし、取り付け

- 注意** ・オプションの装着などを行う場合以外は、本体のカバーを開けないでください。故障の原因となる場合があります。
・本体カバーや基板などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。

先に本体カバーの取りはずしかた、取り付けかたをまとめて説明します。

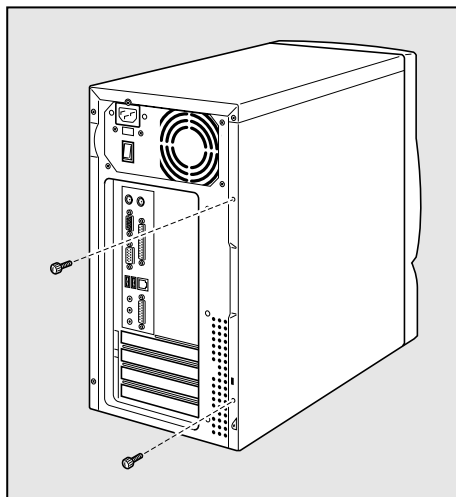
それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

1 本体カバーの取りはずし

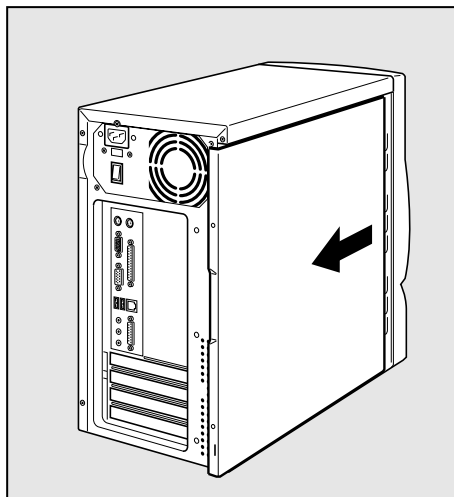
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

- 注意** ・電源を切っただけではメインボードなどは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差しを行うと、故障の原因となります。
必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

- 5 本体背面のネジ2本をはずす



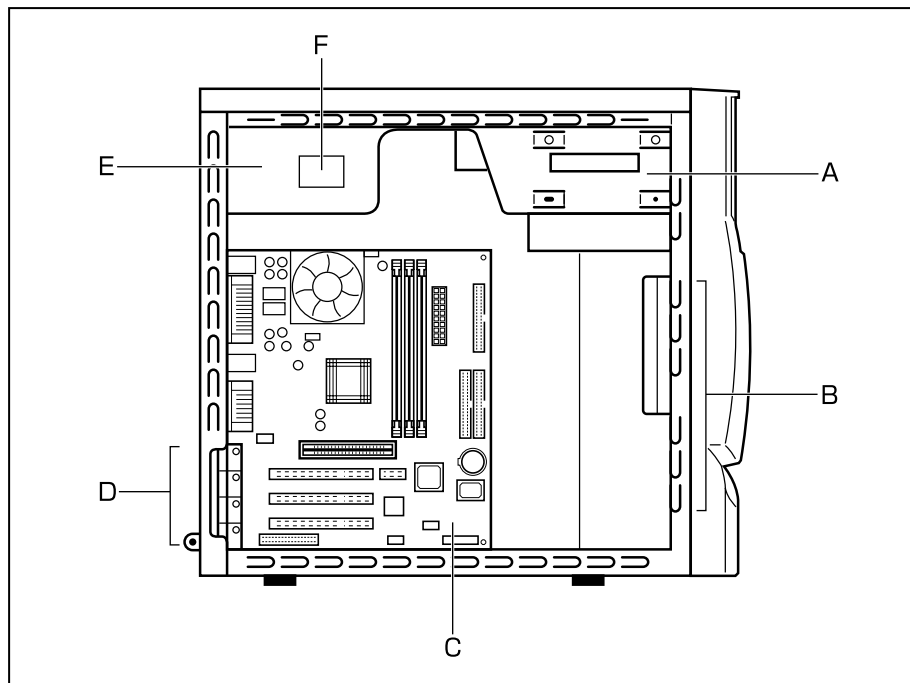
6 本体カバーを後方へずらし、取りはずす



注意

・カバーの取り扱いに注意してください。
落としたり、ぶついたりして手や足をケガするおそれがあります。

② 本体カバーを取りはずしたところ（横面から）



E、F以外はユーザ作業エリアです。

A. ファイルスロット

CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブ 1 個が標準で内蔵

B. ハードディスクスロット

ハードディスクドライブ 1 個が標準で内蔵

C. メインボード

D. 拡張スロット

AGP スロット 1 個、PCI スロット 3 個

E. 電源ユニット

F. 電源警告ラベル

(電源ユニットのカバーははずさないでください。内部には高電圧部分があり、感電・火災・故障のおそれがあります。)

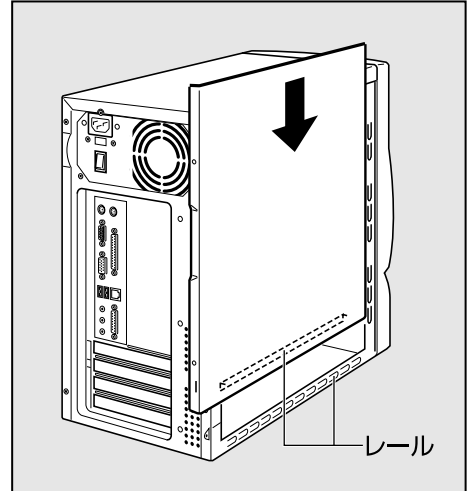


注意 ・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。

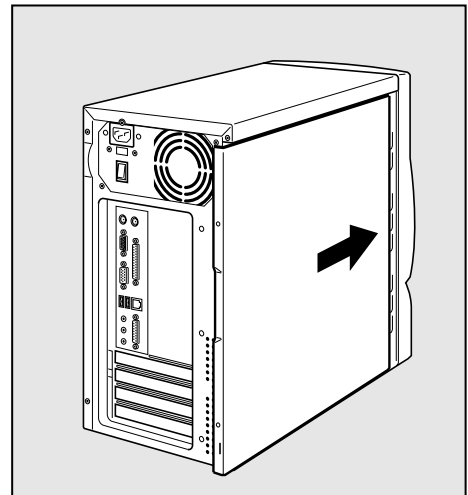
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

3 本体カバーの取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体カバーを、本体前面から 2cm 程度離れた位置に、下側のレールを本体に合わせてのせる

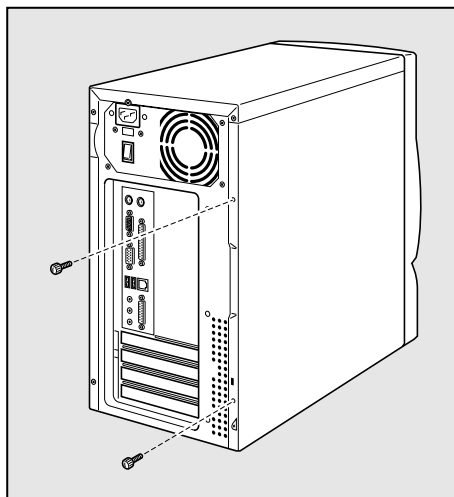


- 4 前方にスライドさせる



注意 ・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

5 本体背面にネジ2本を取り付け、固定する



7 オプションカード

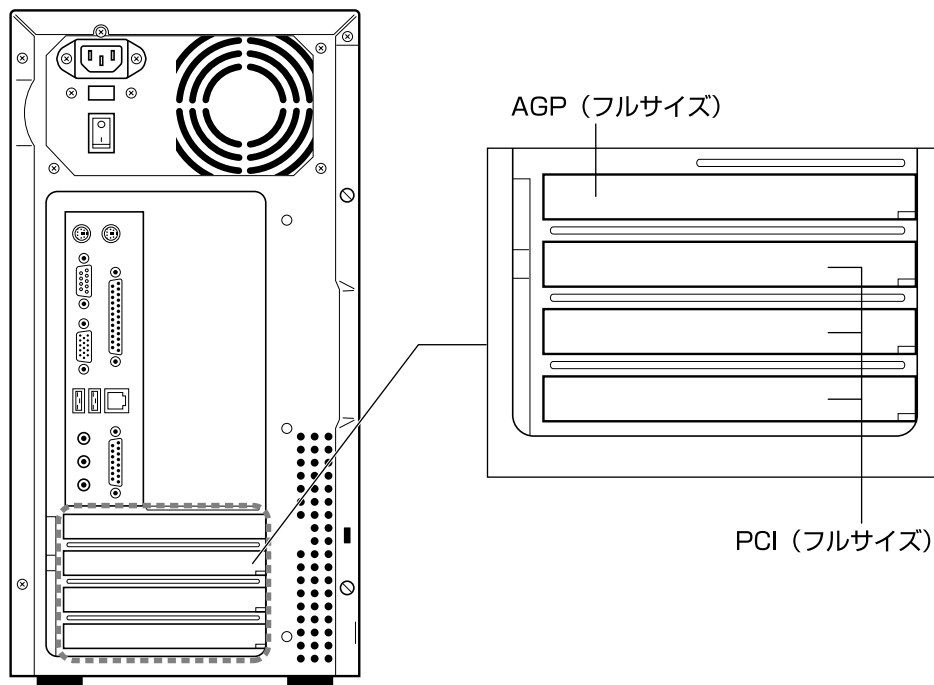


・PC97規格に対応していないカードは正常に動作しない場合があります。

お願い

1 拡張スロットの位置

本体にはオプションカード用のフルサイズの拡張スロットが合計4個用意されています。下の図のように、上からAGPスロットが1個、PCIスロットが3個となっています。本装置では、PC97規格に対応したオプションカードを使用できます。



注意 ・オプションカードの取り付けに際しては、拡張スロットの電流容量を超えないように注意してください。

電流容量について

⇒ 「付録 2-8- 拡張スロットの電流容量」、『各オプションカードに付属の説明書』



お願い

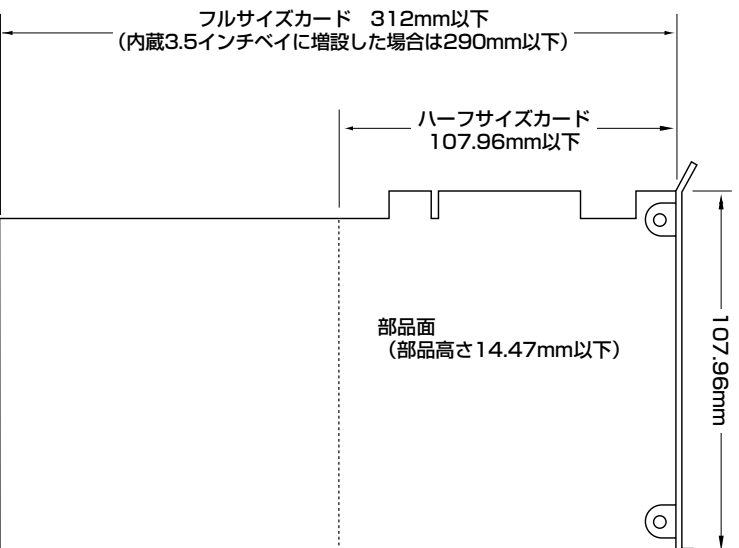
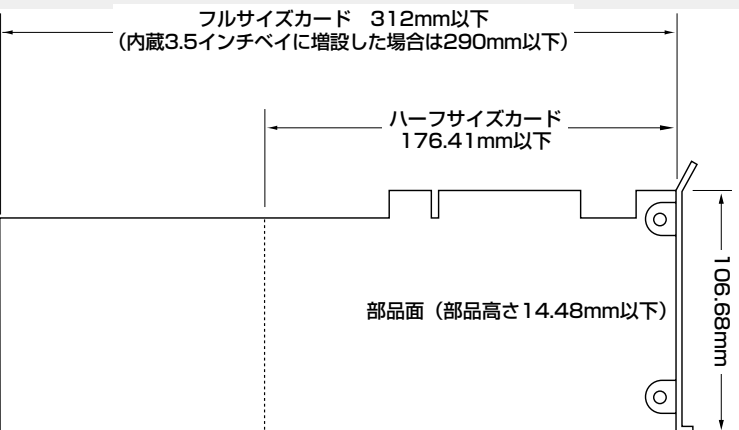
・オプションカードは、特に静電気に対して敏感で、その取り扱いには注意が必要です。カードを持つときは、カードの縁を持つようにして、部品や金メッキ部分には触らないようにしてください。保護袋や本体からカードを抜き出したときには、水平で、接地された、静電気の無いところに、部品面を上にして置くようにしてください。カードは、どんな面の上でも、滑らせて移動させないでください。

オプションカード外形図

各スロット用のカードの種類と本体に装着可能なカードの外形図を示します。

● PCI タイナカード外形図

● AGP タイナカード外形図



② オプションカードの取り付け



お願い

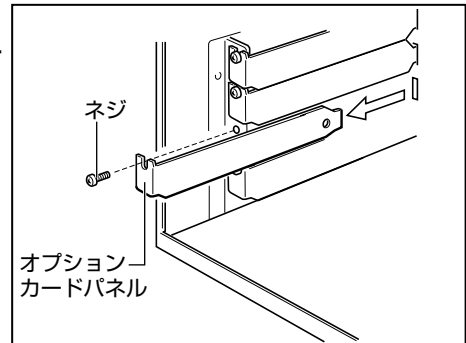
・この作業を行うとき、メインボードや他のボードの部品を損傷しないように注意してください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 オプションカードパネルを固定しているネジ 1 本ははずしてパネルを取りはずす
取りはずしたパネルは、大切に保管しておいてください。

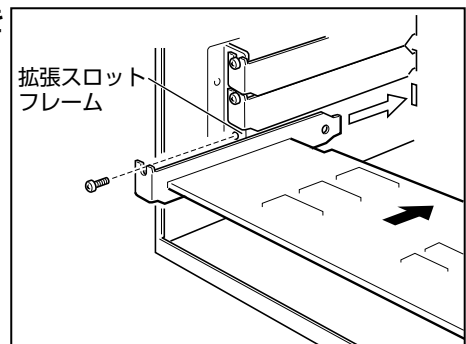


4 保護袋からオプションカードを抜き出し、水平で、接地された、静電気のないところに、部品面を上にして置く

保護袋は再度取りはずしたときのために保管しておいてください。

5 オプションカードのジャンパやスイッチの設定が必要な場合は、カードに付属の説明書に従って設定する

6 カードの上の縁、または上の角のところを持って、図のようにカードをセットする
オプションカードのエッジ（金メッキ部分）を拡張スロットコネクタにしっかり合わせて押し入れます。



注意 ・オプションカードには鋭い突起があります。取り付け作業時には、指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。
・オプションカードをセットするときは、本体内部のケーブルを傷つけないようにしてください。ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。

7 拡張スロットフレームのネジ穴と、オプションのコネクタパネルの切れ込みを合わせる

コネクタパネルは、オプションカードパネルのあった場所にぴったりと納まります。

8 ネジを止める

ネジをしめる前に、コネクタパネルをネジの方に、上に寄せるようにします。これを怠ると、このパネルが、隣のスロットのカバーやオプションカードに接触してしまいます。

9 必要があれば取り付けしたオプションカードにケーブル類を接続する

10 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 オプションカードの取りはずし

オプションカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 2 オプションカードの取り付け」

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 オプションカードに接続されているケーブルがあれば、はずす

再度取り付けるときのために、取りはずしたケーブルは大切に保管しておいてください。

4 オプションカードのコネクタパネルと本体を止めているネジをはずす

5 オプションカードの縁を持って、カードが拡張スロットコネクタからはずれるまで引き抜く



注意 ・オプションカードには鋭い突起があります。オプションカードを引き抜くときは指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。
・オプションカードを引き抜くときは、本体内部のケーブルを傷つけないようにしてください。ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。

6 オプションカードを、静電気対策された保護袋に入れて保管する

7 取りはずしたときに保管してあったオプションカードパネルを取り付けて、ネジ止める



注意 ・空いたスロットには必ずオプションカードパネルをつけるようにしてください。電磁ノイズと機器の冷却に問題が起きることがあります。

8 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

8 増設ハードディスクドライブ

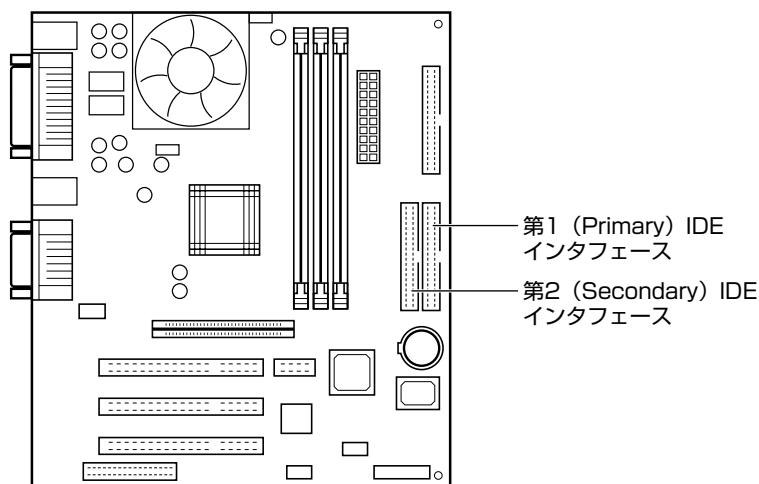
本装置の、IDE インタフェースに IDE ハードディスクドライブを接続し、増設する方法について説明します。

1 IDE インタフェースについて

IDE 装置は、本装置のメインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースに 2 台、第 2 (Secondary) IDE インタフェースに 1 台の、合計 3 台まで接続することができます。

それぞれの IDE インタフェースに接続するドライブは、1 台目をマスタ (Master)、2 台目をスレーブ (Slave) と呼びます。

本装置ではすでに、第 1 (Primary) IDE インタフェースのマスタ (Master) にハードディスクドライブ、第 2 (Secondary) IDE インタフェースのマスタ (Master) に CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブが接続されています。



2 増設ハードディスクドライブのジャンパについて

IDE インタフェースに増設ハードディスクドライブを接続する場合は、各増設ハードディスクドライブにマスタ (Master) とスレーブ (Slave) の設定を行う必要があります。

接続時の注意

本装置に IDE 装置を増設する場合は、必ず次の表のように増設を行なってください。

第1 (Primary) IDE インタフェース		第2 (Secondary) IDE インタフェース
マスタ (Master)	スレーブ (Slave)	マスタ (Master)
ハードディスクドライブ 接続済	増設1台目	CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブ接続済

☞ 増設ハードディスクドライブの取り付け

⇨ 『増設ハードディスクドライブに付属の説明書』



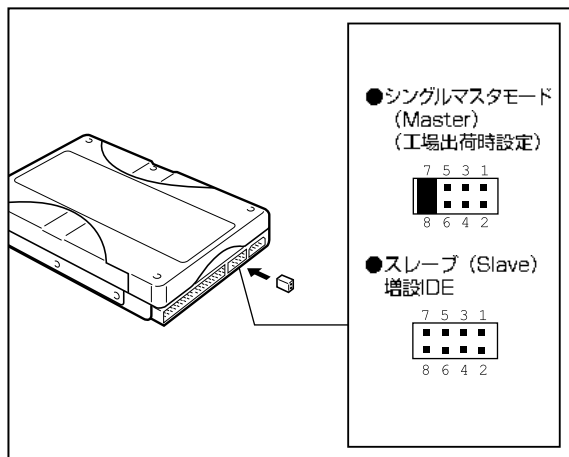
- ・増設ハードディスクドライブはEQUIUM 専用のオプションをお買い求めください。取り付けについてはオプションに付属の説明書をご覧ください。
なお、PV3000 シリーズ専用の増設ハードディスクドライブは、ご利用になることはできません。

●ハードディスクドライブを増設する場合

第 1 (Primary) IDE インタフェースにハードディスクドライブを増設する場合は、接続済みのハードディスクドライブ背面のジャンパストラップをシングルモードからマスタ (Master) に変更し、増設するハードディスクドライブの設定をスレーブ (Slave) にしてください。

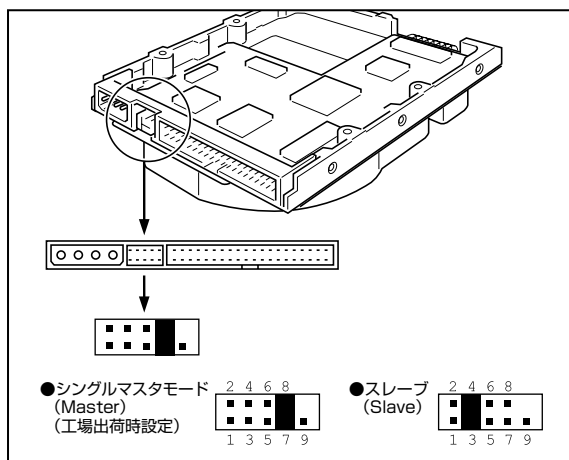
接続する増設ハードディスクドライブのタイプ (A / B) によってジャンパの設定が異なります。接続するドライブに合った設定を行なってください。

●タイプ A の設定



- ・ハードディスクドライブを 1 台で使用する場合は、ジャンパストラップをシングルマスタモード (Master) に設定してください。スレーブ (Slave) の設定では、動作しません。

●タイプ B の設定

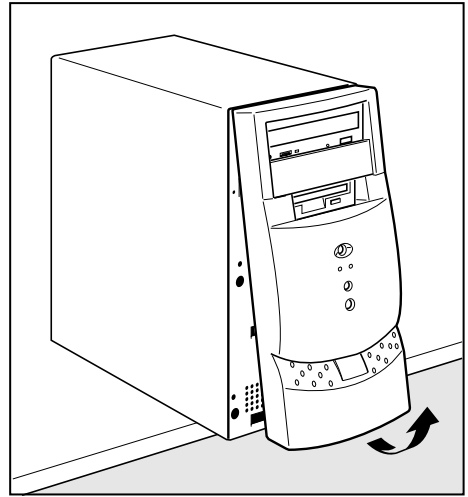


- ・ハードディスクドライブを 1 台で使用する場合は、ジャンパストラップをシングルマスタモード (Master) モードに設定してください。スレーブ (Slave) の設定では、動作しません。

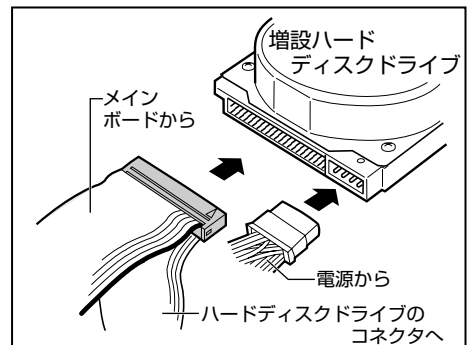
3 増設ハードディスクドライブの取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーをはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 安定した台の端に本体を置く
- 4 フロントベゼルを取りはずす
フロントベゼル底面のくぼみに手をかけ、手前に強く引いてください。

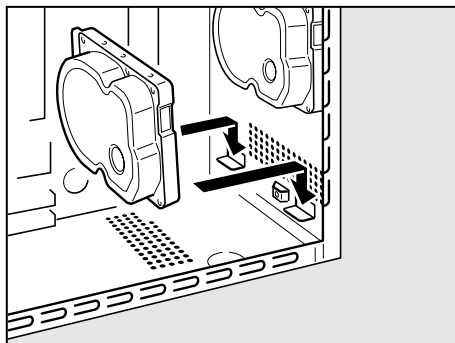
! 注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。



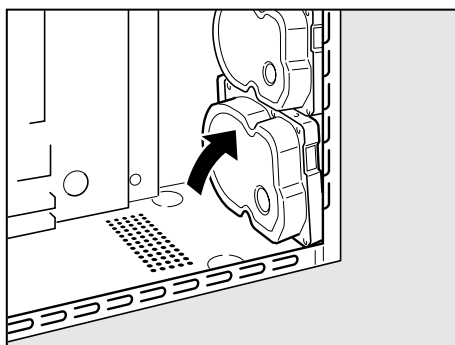
- 5 ドライブにケーブルを接続する
このときコネクタの向きに注意してください。



- 6** ハードディスクの底面を、本体の増設ハードディスクスロット用の台にのせる

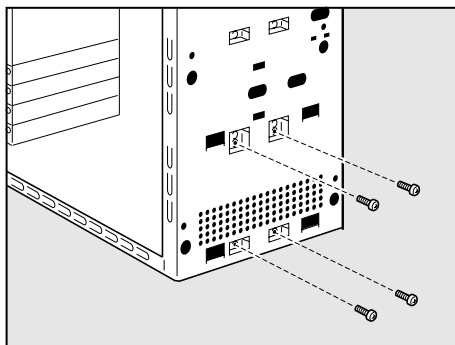


- 7** 倒れないように手でおさえ、ネジ穴の位置を合わせる



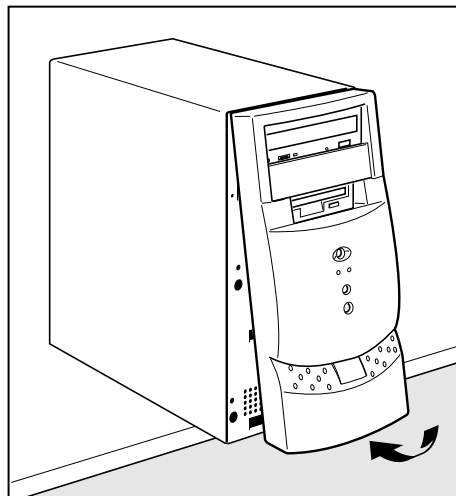
! 注意 ・ハードディスクを取り付けるときに、ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。故障の原因となるおそれがあります。

- 8** ネジ4本でハードディスクを本体のハードディスクスロットに取り付ける



9 フロントベゼルを取り付ける

CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブの位置を合わせてかぶせ、フロントベゼル中程と下側の左右を押してツメを押し込み、固定します。

**10 本体カバーを取り付ける**

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

4 増設ハードディスクドライブの取りはずし

増設ハードディスクドライブの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 3 増設ハードディスクドライブの取り付け」

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する**2 本体カバーをはずす**

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 安定した台の端に本体を置く**4 フロントベゼルを取りはずす**

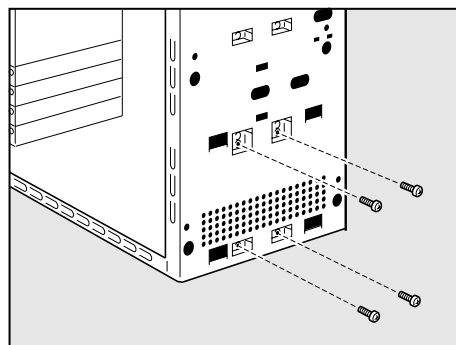
フロントベゼル底面のくぼみに手をかけ、手前に強く引いてください。



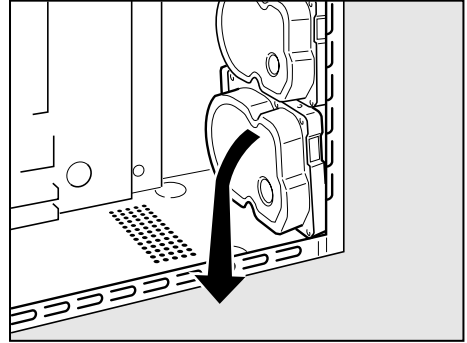
注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。

5 増設ハードディスクドライブを固定しているネジ4本をはずす

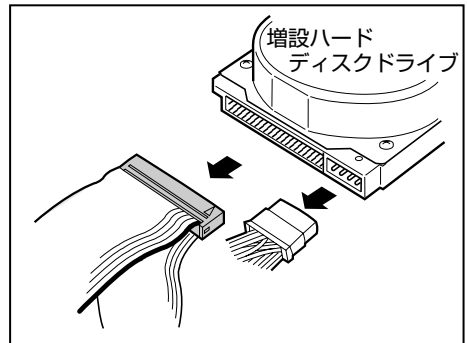
増設ハードディスクドライブが倒れないように手で押さえながらネジをはずしてください。



6 本体から増設ハードディスクドライブを取りはずす



7 増設ハードディスクドライブからケーブルをははずす



☞ ケーブル機器の接続関係について ⇨ 「本章 12 内部ケーブルの接続」

再接続の際に、間違った接続をすると故障の原因となりますのでご注意ください。

8 フロントベゼルを取り付ける

CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブの位置を合わせてかぶせ、フロントベゼル中程と下側の左右を押してツメを押し込み、固定します。

9 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

5 増設ハードディスクドライブの設定

何もインストールされていないハードディスクドライブを増設した後、システムに認識させるには、次の操作が必要です。

☞ ハードディスクドライブの増設方法

⇒ 「本節 3 増設ハードディスクドライブの取り付け」

Windows 98 の場合

1 [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] - [MS-DOS プロンプト] をクリックする

[MS-DOS プロンプト] 画面が表示されます。

2 FDISKと入力し、[Enter] キーを押す

次の画面が表示されます。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)?[N]

[Y] を選択すると、FAT32 ファイルシステムに対応したオペレーティングシステム (EQUIUM を含む) のみ使用可能になります。

選択後、[Enter] キーを押すと FDISK オプションが起動します。

FDISKオプション

現在のハードディスク： 1

次のうちからどれか選んでください：

1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください： [1]

FDISKを終了するにはEscキーを押してください。

3 [5] [Enter] とキーを押す

メニューの [5. 現在のハードディスクドライブを変更] が選択されます。

4 [2] [Enter] とキーを押す

増設したディスク 2 のハードディスクドライブが選択され、FDISK オプションの初期画面に戻ります。

5 [Enter] キーを押す

[1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成] が選択されます。

6 [Enter] キーを押す

[1. 基本 MS-DOS 領域を作成] が選択されます。

7 [Enter] キーを押す

基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズが割り当てられます。

8 [Esc] キーを 3 回押し、FDISK オプションを終了する

9 EXIT と入力し、[Enter] キーを押す

MS-DOS プロンプトが終了します。

10 [スタート] ボタンをクリックし、[Windows の終了] をクリックする

11 [再起動する] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

システムが再起動します。

[マイコンピュータ] を起動し、増設したハードディスク (D :) が表示されていることを確認してください。



(表示例)

12 [マイコンピュータ] 画面から [D:] ドライブを選択する

13 メニューバーから【ファイル】→【フォーマット】をクリックする

【フォーマット】画面が表示されます。タイトルバーに「フォーマット (D :)」と表示されていることを確認してください。



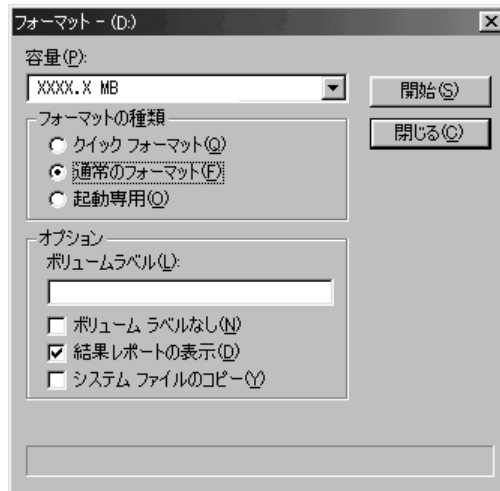
お願い

・ 選択するドライブを間違えないでください。フォーマットすると、ディスクの内容はすべて消去されてしまいます。



(表示例)

14 【フォーマットの種類】から【通常のフォーマット】を選択し、【開始】ボタンをクリックする



警告のメッセージが表示されます。



15 確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが終了すると、結果が表示されます。確認して [閉じる] ボタンをクリックしてください。

フォーマット終了後、スキャンディスク（ディスクのエラーをチェックする機能）が起動します。スキャンディスクが必要な場合はメッセージに従って操作してください。以上で増設ハードディスクドライブの設定が終了し、使用できるようになります。



・増設ハードディスクドライブの設定終了後は、システムを再起動してください。
再起動しないとロングファイル名を使用できない場合があります。

Windows 2000 の場合

1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする

2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

3 [管理ツール] アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理] をダブルクリックする

4 [記憶域] - [ディスクの管理] をクリックする

ハードディスクを増設した後の最初の起動では、増設したハードディスク（例：ディスク 1）は [不明] と表示されます。



(表示例)

5 [ディスク 1] の領域を右クリックし、表示されるメニューで [署名] をクリックする

6 署名するディスクをチェックし [OK] ボタンをクリックする

増設したハードディスク（例：ディスク 1）は [ベーシック] と表示されます。



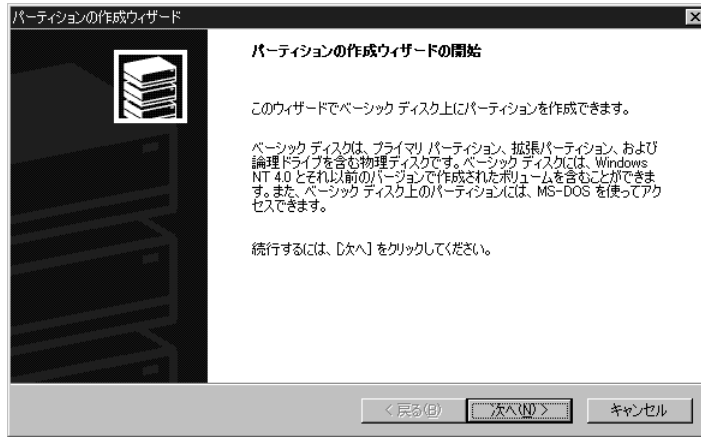
(表示例)

7 増設したハードディスク（例：ディスク 1）の [未割り当て] の領域を右クリックする



(表示例)

8 表示されるメニューで [パーティションの作成] をクリックする [パーティションの作成ウィザード] が起動します。

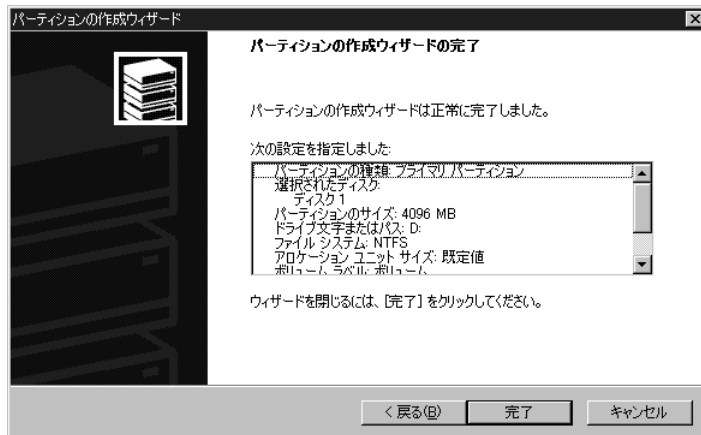


(表示例)

9 [次へ] ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

- ・パーティションの種類
- ・パーティションサイズ
- ・ドライブ文字またはパスの割り当て
- ・フォーマット
- ・ファイルシステム

プライマリパーティション、または拡張パーティションの作成ができますが、ここではプライマリパーティションを4GB・NTFSフォーマットで作成した場合を想定しています。設定が完了すると、確認画面が表示されます。

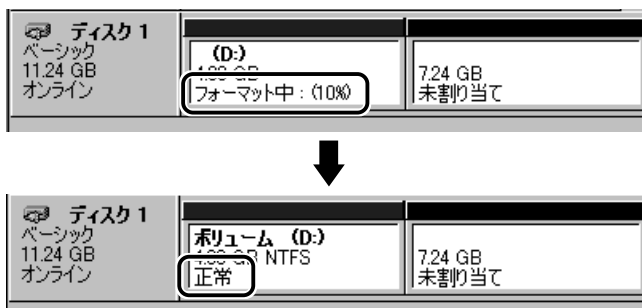


(表示例)

10 設定内容を確認し、[完了] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

パーティションのステータスが [正常] に変われば完了です。



(表示例)

詳しくは「コンピュータの管理」のヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

[コンピュータの管理] - [操作] - [ヘルプ] をクリックする

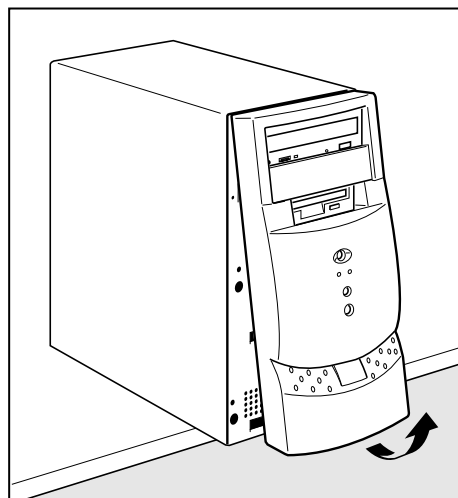
9 増設 5 型ドライブ

1 増設 5 型ドライブの取り付け

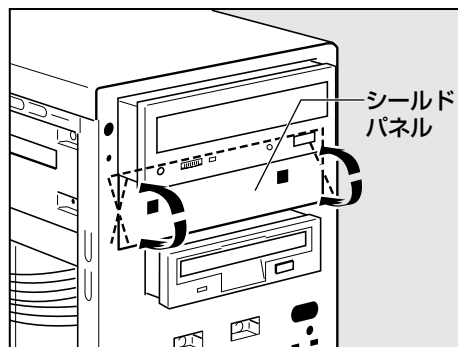
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 安定した台の端に本体を置く
- 4 フロントベゼルを取りはずす
フロントベゼル底面のくぼみに手をかけ、手前に強く引いてください。



注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。



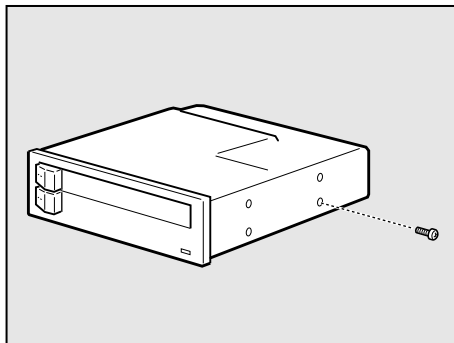
- 5 装着するオプションドライブによって、ドライブ側のジャンプスイッチやディップスイッチの設定をする
☞ 設定について ⇨ 『それぞれのオプションに付属の説明書』
- 6 シールドパネルの矢印の位置を何度か押し、シールドパネルを取りはずす



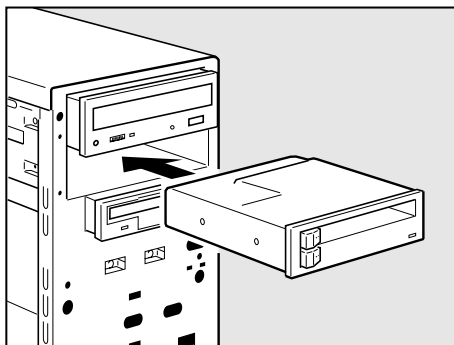
注意 ・シールドパネルを取りはずすときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。
シールドパネルを取りはずすときに折った部分はとがっていますので触れないでください。

7 本体同梱の増設5型ドライブ専用取り付けネジを図の位置に取り付ける

オプションドライブに付属のネジは、ここでは使用しないでください。

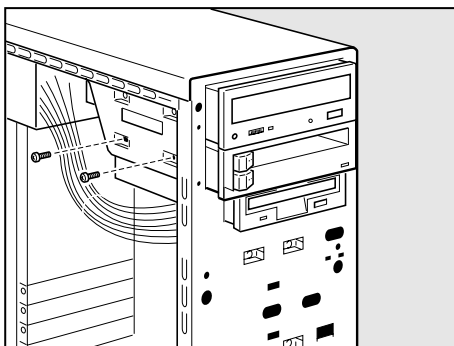


8 ファイルスロットにオプションドライブを取り付ける



9 オプションドライブに付属のネジ2本でオプションドライブを固定する

本体同梱のネジ（増設5型ドライブ専用取り付けネジ）は、ここでは使用しないでください。



10 オプションドライブとケーブルを接続する

ケーブルが正しい場所に接続されているか確認してください。

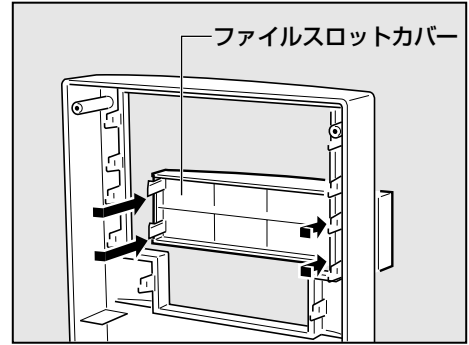
☞ オプションドライブのケーブル接続 ⇨ 『オプションに付属の説明書』

11 電源コネクタをオプションドライブに接続する

12 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

13 フロントベゼルに付いているファイルスロットカバーを取りはずす



・取りはずしたファイルスロットカバーはなくさないように大切に保管してください。

お願い

14 フロントベゼルを取り付ける

CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブの位置を合わせてかぶせ、フロントベゼルの中程と下側の左右を押ししてツメを押し込み、固定します。

15 電源コードを接続する

16 本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる

17 必要があれば、BIOS セットアップを起動し、設定を変更する

☞ BIOS セットアップ ☞ 「5章 BIOS セットアップについて」

2 増設5型ドライブの取りはずし

増設5型ドライブの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 1 増設5型ドライブの取り付け」

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 フロントベゼルを取りはずす

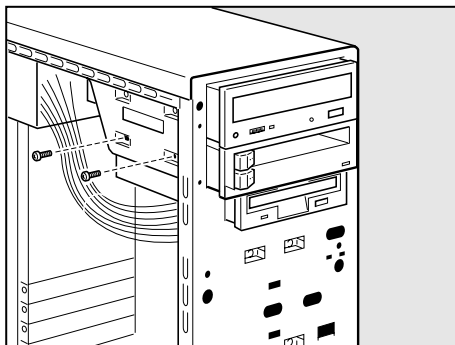
フロントベゼル底面のくぼみに手をかけ、手前に強く引いてください。



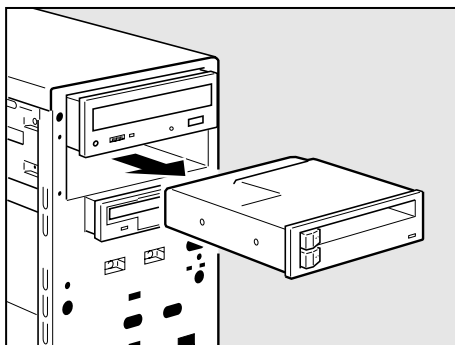
注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。

4 オプションドライブに接続されている電源コネクタとケーブルをはずす

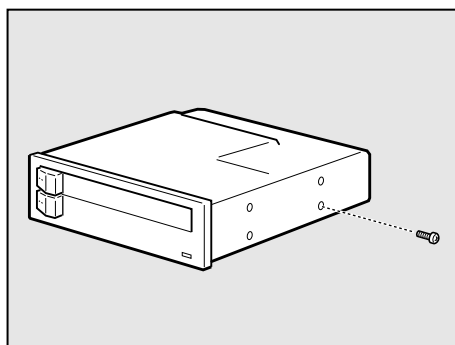
5 オプションドライブを固定しているネジ
2本をはずす



6 オプションドライブを引き抜く
取りはずしたドライブは、適切な箱などに入れて
大切に保管してください。



7 オプションドライブから増設5型ドライ
ブ専用取り付けネジ1本をはずす



8 フロントベゼルにファイルスロットカバーを取り付ける

9 フロントベゼルを取り付ける

CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブの位置を合わせてかぶせ、フロントベゼルの
中程と下側の左右を押してツメを押し込み、固定します。

10 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

11 電源コードを接続する

12 本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる

13 必要があれば、BIOS セットアップを起動し、設定を変更する

☞ BIOS セットアップ ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

10 増設メモリカード



お願い

- ・必ずメモリカードに付属の説明書をお読みになったうえで作業を行なってください。
- ・増設メモリカードの取り付けが難しいと思われる場合は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

本装置には次のメモリカードが取り付けられます。

増設メモリカード	型番	対応システムバスクロック
増設128MBメモリカードC	PVME128C	100、133MHz



注意

- ・本装置は、システムバスクロック 100MHz をサポートしています。メモリ増設の際は、ご使用のモデルにあったメモリを使用してください。異種のメモリを使用すると正常に動作しない場合があります。
- ・メモリカードを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。



メモ

- ・ECC 機能はサポートしていません。

メインボード上の3つのメモリソケットに最大合計 512MB (256MB × 2) のメモリカードを取り付けることができます。

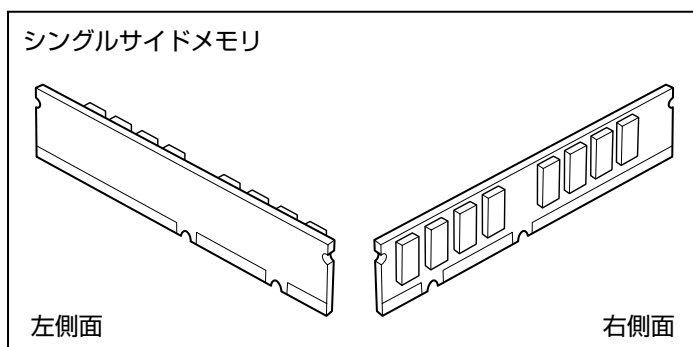
標準メモリのメモリカードを取りはずし、256MB のメモリカードを2枚実装することにより、512MB のメモリ容量にすることができます。

使用できるメモリカードの枚数は、メモリカードの種類によって異なります。

● シングルサイドメモリ

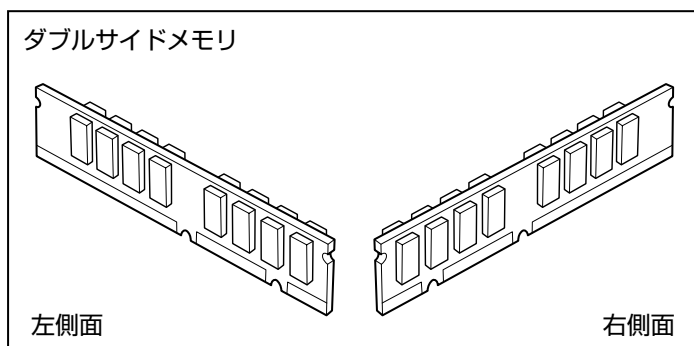
DIMM メモリ基板の片面にのみメモリ (IC) が実装されているタイプ

…最大3枚まで取り付け可能



● ダブルサイドメモリ

DIMM メモリ基板の両面にメモリ（IC）が実装されているタイプ
…最大2枚まで取り付け可能

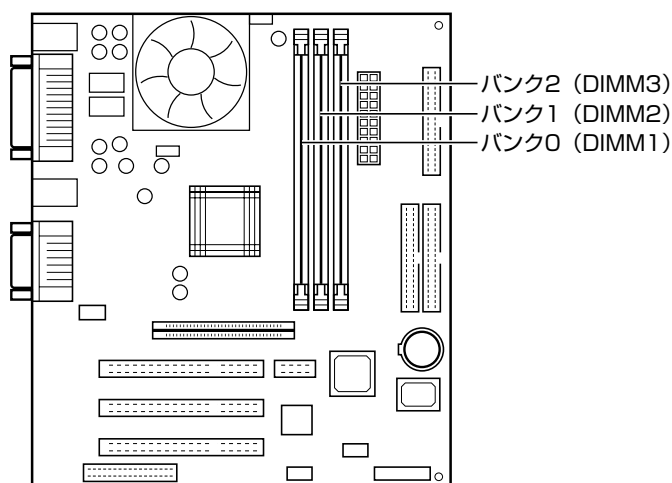


● シングルサイドメモリとダブルサイドメモリの組み合わせ

シングルサイドメモリとダブルサイドメモリを組み合わせる場合、使用できる組み合わせは次の表の○の組み合わせです。

実装枚数		シングルサイドメモリ			
		0枚	1枚	2枚	3枚
ダブル サイド メモリ	0枚	—	○	○	○
	1枚	○	○	○	—
	2枚	○	x	—	—
	3枚	x	—	—	—

メモリ増設ソケットは、DIMM1がバンク0用、DIMM2がバンク1用、DIMM3がバンク2用です。



お願い

・カードエッジ（接点）は金メッキタイプを使用し、ハンダメッキは使用しないでください。本体が正しく動作しないことがあります。

1 増設メモリカードの取り付け

増設メモリカードの取り付け方法について説明します。

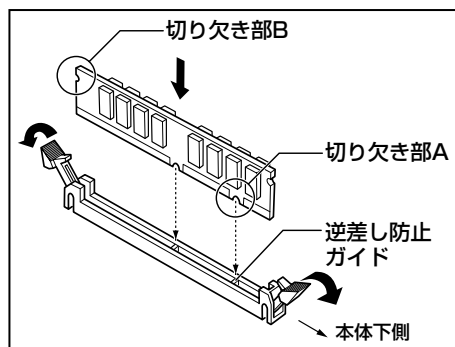
- 注意** ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

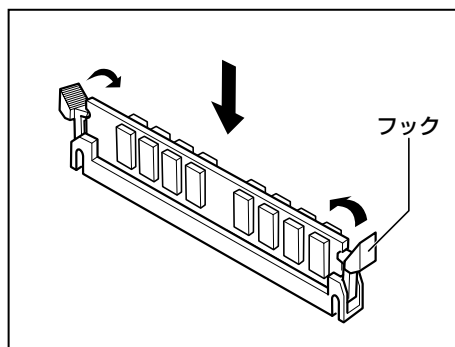
3 メモリ増設ソケットの左右のフックを外側に倒し、増設メモリカードの切り欠き部Aを、メモリ増設ソケットの逆差し防止ガイドに合わせる



- 注意** ・増設メモリカードの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。

4 メモリ増設ソケットの左右のフックが切り欠き部Bに掛かるように、増設メモリカードをしっかりと押し込む

増設メモリカードが左右のフックで固定されます。



- 注意** ・増設メモリカードが完全に挿入されていない状態で、使用すると、異常動作したり、増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。
・内部のケーブルをメモリカードとソケットではさみ込まないようにしてください。



お願い

・メモリカードの接点（金メッキ部）がきちんとソケットに入っていることを確認してください。正常に取り付けられていないと、システムが正常に起動できなかったり、故障の原因となります。

5 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

以上で増設メモ리카ードの取り付けは完了です。

増設したメモ리카ードが認識されているか、次の「メモリ増設の確認」で確認してください。

●メモリ増設の確認

1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

2 [システム] アイコンをダブルクリックする

[システムのプロパティ] 画面が表示されます。



合計のメモリ量が表示されます。

(表示例)

3 [全般] タブのRAMの数値が合計のメモリ量と合っているか確認する

次のような場合は、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう1度正しく増設メモ리카ードの取り付けを行なってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない



・VRAMとしてメインメモリを使用しているので、1MB少なく表示されます。

② 増設メモリカードの取りはずし

増設メモリカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 1 増設メモリカードの取り付け」



注意 ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

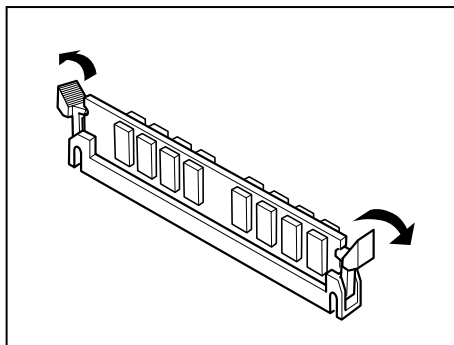
1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

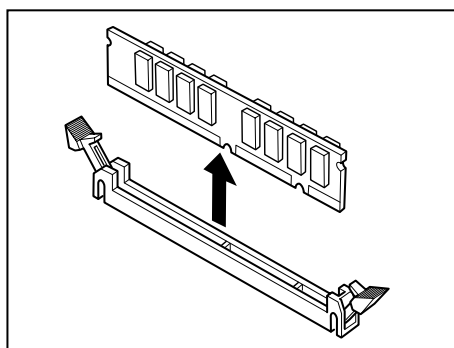
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 メモリ増設ソケットの左右のフックを外側に倒す

増設メモリカードが少し出てきます。



4 増設メモリカードを真上に引き抜く



5 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約 3 年です。

バッテリーが寿命に達すると、システム起動時に次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行なってください。

CMOS Battery Low.



注意 ・本装置の内蔵バッテリーには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。

取り扱いを誤ると、発熱、破裂、発火、中毒、やけどなどの危険があります。

- ・充電、電極除去、分解をしない
- ・100℃以上の加熱、焼却をしない
- ・電池は水にぬらさない
- ・子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
- ・電池の内部の液がもれたときは、液にふれない

リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。



お願い

・電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定内容）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後ももう 1 度設定してください。

☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

・本装置に使用できる内蔵バッテリーは CR2032 リチウム電池です。交換の際は、市販の CR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。

バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

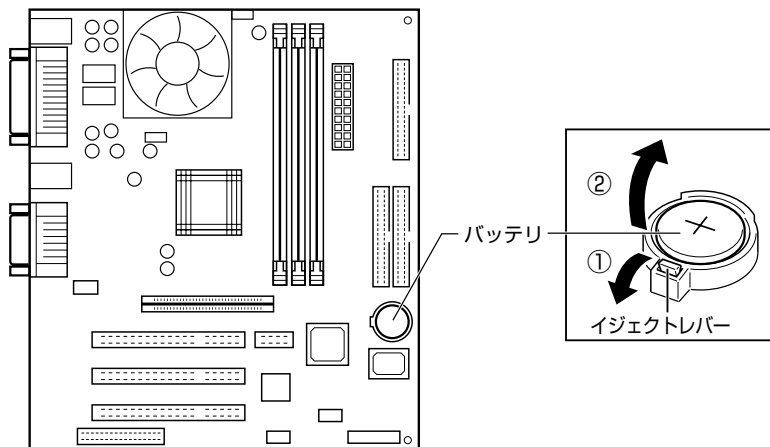
1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 イジェクトレバーを図の①の方向へ押す

バッテリーが少し浮き上がります②。



お願い

・バッテリーが浮き上がらない場合は、イジェクトレバーの部分だけを押ししてください。ケースの部分と一緒に押さえていると、レバーは押せません。

4 新しいバッテリーを (+) を上にして取り付ける



お願い

・バッテリーの極性 (+、-) をまちがわないように取り付けてください。
+ 側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

5 本体カバーを取り付ける

🔗 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」



お願い

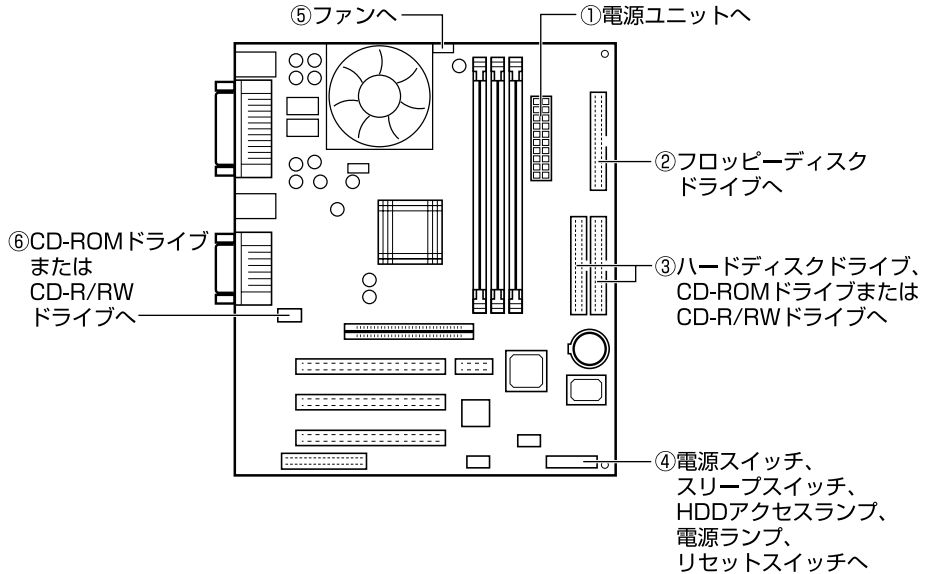
・BIOS セットアップの設定は、既定値の状態になっています。電源 ON 時に BIOS セットアップを起動し、もう 1 度設定してください。

🔗 BIOS セットアップについて 🔗 「5 章 BIOS セットアップについて」

12 内部ケーブルの接続

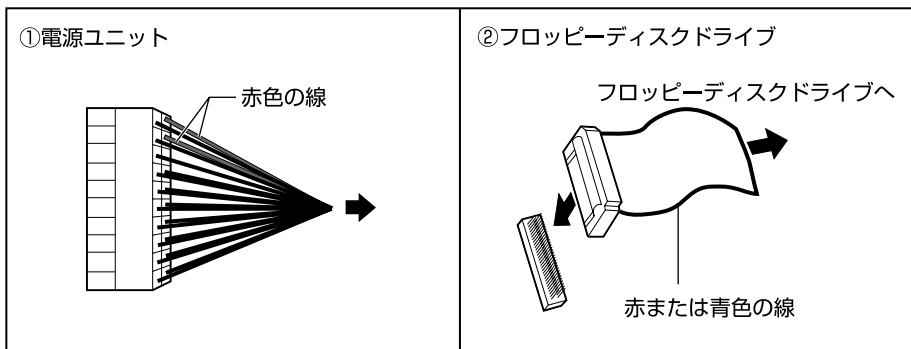
1 メインボードのコネクタ接続位置

各機種のメインボードのコネクタ接続位置について説明します。
各コネクタの装置名は、接続先の装置を表します。

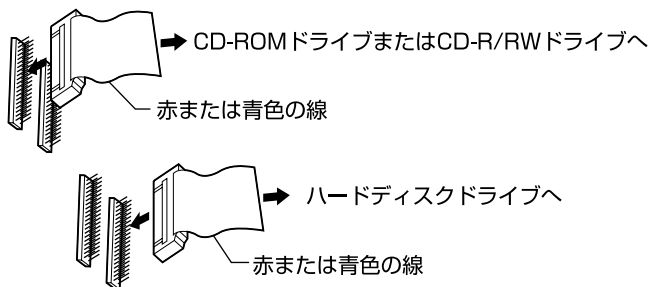


2 コネクタへの接続

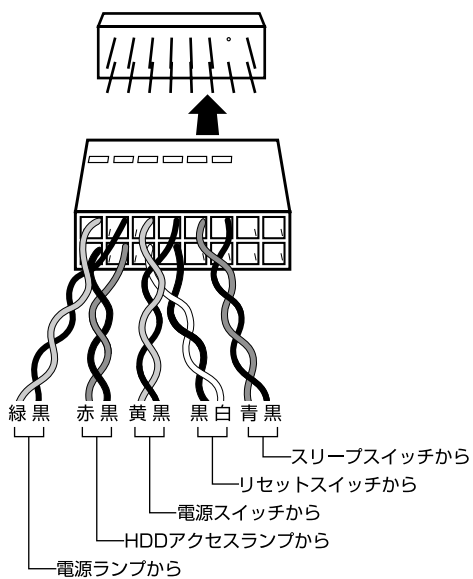
コネクタへの接続方法を説明します。
接続の際は、コネクタの形状やケーブルの色に注意してください。
各イラストのタイトルは、接続先の装置を表します。



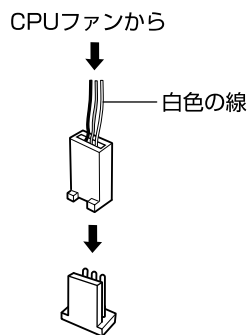
③ハードディスクドライブ、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ



④電源スイッチ、スリープスイッチ、HDDアクセスランプ、電源ランプ、リセットスイッチ



⑤ファン



3 装置への接続

装置への接続方法を説明します。

接続の際は、コネクタの形状やケーブルの色に注意してください。

各イラスト中の「メインボード*から」という説明は、「メインボードのコネクタ接続位置」の接続装置名を表します。

